



平成28年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年8月12日

上場会社名 AppBank株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 6177 URL http://www.appbank.co.jp/  
 代表者(役職名) 代表取締役社長CEO (氏名) 宮下 泰明  
 問合せ先責任者(役職名) 専務取締役グループCFO(氏名) 廣瀬 光伸 (TEL) 03-6302-0561  
 四半期報告書提出予定日 平成28年8月15日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年12月期第2四半期の連結業績(平成28年1月1日～平成28年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年12月期第2四半期	1,154	△43.5	△38	—	△70	—	△29	—
27年12月期第2四半期	2,043	69.8	465	172.2	441	161.9	266	147.6

(注) 包括利益 28年12月期第2四半期 △29百万円(—%) 27年12月期第2四半期 266百万円(147.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年12月期第2四半期	△4.52	—
27年12月期第2四半期	41.49	—

(注) 1. 平成27年12月期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、当社株式は非上場であり、期中平均株価が把握できないため記載しておりません。

2. 平成28年12月期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失金額であるため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率
	百万円	百万円	百万円	百万円	%
28年12月期第2四半期	2,336	1,099	1,099	1,099	47.0
27年12月期	2,688	1,129	1,129	1,129	42.0

(参考) 自己資本 28年12月期第2四半期 1,098百万円 27年12月期 1,128百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
28年12月期	—	0.00	—	—	—
28年12月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年12月期の連結業績予想(平成28年1月1日～平成28年12月31日)

平成28年12月期の連結業績予想につきましては、現時点において合理的な業績予想の算定を行うことは困難であり、適切な予想の開示ができないと判断したことから、控えさせていただきます。なお、該当理由などは、添付4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社 (社名) 、 除外 1社 (社名) スタジオむらい株式会社

期中における重要な子会社の異動に関する注記

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用に関する注記

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有  
② ①以外の会計方針の変更 : 無  
③ 会計上の見積りの変更 : 無  
④ 修正再表示 : 無

会計方針の変更に関する注記

- (4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	28年12月期2Q	6,798,000株	27年12月期	6,798,000株
② 期末自己株式数	28年12月期2Q	200,000株	27年12月期	200,000株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	28年12月期2Q	6,598,000株	27年12月期2Q	6,420,000株

(注) 当社は平成27年7月28日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っておりますが、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、発行済株式数 (普通株式) を算定しております。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

平成28年12月期の連結業績予想につきましては、現時点において合理的な業績予想の算定を行うことは困難であり、適切な予想の開示ができないと判断したことから、控えさせていただきます。なお、該当理由などは、添付4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	11
(重要な後発事象)	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における当社グループを取りまく経営環境におきましては、メディア事業の主たる収益源であるインターネット広告市場が引き続き順調に伸長しております。従来型メディアである4媒体(テレビ、新聞、雑誌、ラジオ)の広告費が伸び悩んでいることに対し、インターネット広告費は平成18年から直近の平成28年5月(確報値)まで一貫して増加を続けております(注1)。また、スマートフォン端末出荷数は低迷(注2)しているものの、その保有率は増加しております。一方で、端末販売店などスマートフォン・アクセサリを取り扱う他社店舗が拡大するなど、当社ストア事業を取り巻く環境は競争激化の傾向にあります。

このような環境下において、当社の経営理念である「You are my friend.」のもと、ユーザーの皆様に対して「コンテンツの楽しみ方をお伝えする」ためのメディアとして活動し、媒体価値の向上とともにユーザーとの関係構築を推進してまいりました。一方で、昨年12月に発覚した元役員の不祥事に起因する当社ブランドのイメージの悪化に関しましては、当第2四半期連結累計期間においても影響が継続しており、引き続き信頼回復に努めてまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における業績は、売上高1,154,183千円(前年同期比43.5%減)、営業損失38,343千円(前年同期は営業利益465,811千円)、経常損失70,924千円(前年同期は経常利益441,442千円)、親会社株主に帰属する四半期純損失29,797千円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益266,384千円)となりました。

(注1) 出所：経済産業省「特定サービス産業動態統計調査」

(注2) 出所：一般社団法人 電子情報技術産業協会統計資料「移動電話国内出荷台数」

各セグメントの業績は、次のとおりであります。

各セグメントの業績数値にはセグメント間の内部取引高を含んでおります。

#### (メディア事業)

動画配信の分野では、YouTubeプラットフォームにおけるAppBankのチャンネル・ネットワーク登録者数が合計310万人を超え、累計視聴回数が22億回を突破するなど、堅調に推移しております。コンテンツの新機軸と位置付ける「ホラー」や「謎解き」カテゴリは公開動画数が200本を超え、「マジでやばいホラー」シリーズの累計再生回数が300万回を突破するなど、新たなジャンルとして確立しつつあります。ゲーム攻略サイトにおきましては、投稿や回答ができる新機能を新たに導入し、Q&Aページビューが2週間で120万回を超えるなど、順調に推移しております。イベント展開につきましては、4月に「AppBankゲーム祭り」を開催いたしました。また、「AppBank JAPANツアー」を4月は福岡、6月は浜松と名古屋にて開催し、5月には仙台で「ファンミーティング」を開催するなど、多数の参加者にお楽しみいただきました。

スマートフォン広告市場の拡大に伴い、「AppBank.net」を中核とした自社媒体における広告収入は第1四半期の低迷期から脱しつつあります。昨年12月に発覚した不正送金事案の影響により、第1四半期以降一部クライアントからの広告発注の差し控えが生じておりますが、ショートムービーやエンディングジャックなど、新たな広告商材の投入などにより、収益は回復基調にあります。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は464,616千円(前年同期比59.9%減)、セグメント損失(営業損失)は29,992千円(前年同期は営業利益411,639千円)となりました。

なお、メディア事業セグメントにおきまして、平成28年1月19日付で連結子会社であるスタジオむらい株式会社は、当社に吸収合併され消滅しております。

#### (ストア事業)

実店舗及びEコマースサイト運営の双方において、AppBank.netやYouTubeチャンネルを始めとした自社媒体群を通じてユーザーの皆様にご商品の魅力を伝え、購買体験に結び付けるというオムニチャネル戦略を継続しております。また、スマートフォン・アクセサリ販売事業において増加傾向にある競合他店舗に対する優位性確保のため、オリジナル商品開発及びコラボレーション商品の拡充とともに、サービス品質の向上に努めております。

店舗事業では、当第2四半期連結累計期間において、「AppBank Store 博多マルイ」、「AppBank Store 新宿サブナード」及び「AppBank Store くずはモール」をオープンし、「AppBank Store 新宿」については、新宿エリアにおける出店方針の変更から、賃貸借契約の満了をもって閉店いたしました。

Eコマースサイト運営では、スマートフォン・アクセサリを取り扱う他社Eコマースサイト店舗が拡大するなど事業環境の競争激化と不正送金事案の風評被害の影響により、新規入会が伸び悩み、サイトへのアクセス数は減少傾向となりました。そうした環境下、会員ランクによる特典制度の導入及びオリジナル先行予約商品の創出など、既存会員の活性化に向けた施策を実施いたしました。また、6月にはAppBank Storeウェブ店の開設3周年を記念したセールイベント「3周年祭り」を実施し、ご好評をいただきました。なお、会員数は平成28年6月30日現在で324千人となりました。

以上の結果、セグメント合計では、売上高は710,661千円（前年同期比22.4%減）、セグメント損失（営業損失）は18,190千円（前年同期は営業利益46,141千円）となりました。

## （2）財政状態に関する説明

### ①資産、負債及び純資産の状況

#### （資産）

当第2四半期連結会計期間末における総資産は2,336,736千円となり、前連結会計年度末に比べ351,316千円減少いたしました。これは主に、「現金及び預金」が241,749千円減少、「売掛金」が115,502千円減少したことによるものであります。

#### （負債）

当第2四半期連結会計期間末における負債は1,236,803千円となり、前連結会計年度末に比べ321,400千円減少いたしました。これは主に、「買掛金」が60,949千円減少、「未払法人税等」が226,818千円減少したことによるものであります。

#### （純資産）

当第2四半期連結会計期間末における純資産は1,099,932千円となり、前連結会計年度末に比べ29,916千円減少いたしました。これは主に、「親会社株主に帰属する四半期純損失」を29,797千円計上したことによるものであります。

### ②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物の残高は、営業活動による支出が311,472千円、投資活動による支出が235,332千円、財務活動による収入が81,856千円となった結果、前連結会計年度末から464,949千円減少し、1,495,985千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は以下のとおりであります。

#### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において営業活動の結果支出した資金は311,472千円（前年同期は208,964千円の収入）となりました。主な要因といたしましては、税金等調整前四半期純損失90,941千円の計上、法人税等の支払額203,914千円等があったことによるものです。

#### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において投資活動の結果支出した資金は235,332千円（前年同期は46,166千円の収入）となりました。主な要因といたしましては、定期預金の払戻による収入60,000千円があったものの、定期預金の預入による支出283,200千円等があったことによるものです。

#### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において財務活動の結果獲得した資金は81,856千円（前年同期は65,010千円の収入）となりました。主な要因といたしましては、長期借入金の返済による支出218,144千円があったものの、長期借入による収入300,000千円等があったことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

現時点においては、当社のビジネス環境において収益モデルに影響を与える事象が生じており、そのため今後の業績の見通しは未確定要素が多く、合理的な業績予想の算定を行うことが困難な状況です。連結業績予想については、合理的に予想可能となった時点で公表いたします。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当第1四半期連結会計期間において、スタジオむらい株式会社は、当社に吸収合併され消滅したため、連結の範囲から除外しております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

(企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、  
「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)及び  
「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)  
等を当第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額  
を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更し  
ております。また、当第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確  
定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる  
方法に変更しております。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の  
変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第1四半期連結累計期間及び前連結会計年度につい  
ては、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び事業  
分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、当第1四半期連結会計期間の期首時点から将  
来にわたって適用しております。

これによる損益に与える影響はありません。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,010,935	1,769,185
売掛金	326,436	210,933
商品	92,530	79,044
原材料及び貯蔵品	—	554
その他	55,363	87,651
流動資産合計	2,485,266	2,147,369
固定資産		
有形固定資産	73,311	76,114
無形固定資産	7,786	6,652
投資その他の資産		
長期未収入金	148,691	148,691
その他	121,687	106,599
貸倒引当金	△148,691	△148,691
投資その他の資産合計	121,687	106,599
固定資産合計	202,786	189,366
資産合計	2,688,053	2,336,736
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	167,609	106,659
1年内返済予定の長期借入金	300,677	320,100
資産除去債務	—	502
未払法人税等	229,163	2,344
その他	238,590	123,165
流動負債合計	936,040	552,772
固定負債		
長期借入金	592,533	654,966
資産除去債務	29,630	29,065
固定負債合計	622,163	684,031
負債合計	1,558,203	1,236,803
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	99,850	99,850
資本剰余金	289,320	289,320
利益剰余金	746,708	716,910
自己株式	△7,800	△7,800
株主資本合計	1,128,078	1,098,280
新株予約権	1,771	1,652
純資産合計	1,129,849	1,099,932
負債純資産合計	2,688,053	2,336,736

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年6月30日)
売上高	2,043,250	1,154,183
売上原価	1,088,017	704,723
売上総利益	955,233	449,460
販売費及び一般管理費	489,421	487,803
営業利益又は営業損失(△)	465,811	△38,343
営業外収益		
受取利息	61	155
為替差益	196	1,635
役員報酬返納額	—	2,220
雑収入	50	1,024
営業外収益合計	309	5,035
営業外費用		
支払利息	4,281	5,031
過年度決算訂正関連費用	—	32,188
貸倒引当金繰入額	18,002	—
雑損失	2,394	397
営業外費用合計	24,678	37,616
経常利益又は経常損失(△)	441,442	△70,924
特別利益		
新株予約権戻入益	—	118
特別利益合計	—	118
特別損失		
減損損失	5,099	19,179
固定資産除却損	—	956
特別損失合計	5,099	20,135
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前 四半期純損失(△)	436,342	△90,941
法人税、住民税及び事業税	160,860	1,344
過年度法人税等	—	△18,738
法人税等調整額	9,097	△43,749
法人税等合計	169,958	△61,143
四半期純利益又は四半期純損失(△)	266,384	△29,797
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会 社株主に帰属する四半期純損失(△)	266,384	△29,797

四半期連結包括利益計算書  
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	266,384	△29,797
四半期包括利益	266,384	△29,797
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	266,384	△29,797
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

	(単位：千円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	436,342	△90,941
減価償却費	20,177	12,239
減損損失	5,099	19,179
貸倒引当金の増減額(△は減少)	18,002	—
受取利息及び受取配当金	△61	△155
支払利息	4,281	5,031
固定資産除却損	—	956
役員報酬返納額	—	△2,220
過年度決算訂正関連費用	—	32,188
新株予約権戻入益	—	△118
売上債権の増減額(△は増加)	9,988	115,502
たな卸資産の増減額(△は増加)	45,542	12,932
仕入債務の増減額(△は減少)	△59,165	△60,949
未払金の増減額(△は減少)	△36,512	△26,617
未払費用の増減額(△は減少)	△9,133	△35,609
前受金の増減額(△は減少)	△6,373	8,640
その他	△14,921	△81,725
小計	413,266	△91,667
利息及び配当金の受取額	61	155
利息の支払額	△4,200	△4,997
役員報酬返納の受取額	—	2,220
過年度決算訂正関連費用の支払額	—	△31,158
法人税等の支払額	△200,162	△203,914
法人税等の還付額	—	17,890
営業活動によるキャッシュ・フロー	208,964	△311,472
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△4,664	△17,797
無形固定資産の取得による支出	—	△1,260
敷金及び保証金の回収による収入	—	21,150
敷金保証金の差入による支出	△12,158	△14,225
定期預金の預入による支出	△25,000	△283,200
定期預金の払戻による収入	88,000	60,000
その他	△10	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	46,166	△235,332
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
新株予約権の発行による収入	1,771	—
長期借入れによる収入	160,000	300,000
長期借入金の返済による支出	△109,792	△218,144
短期借入金の純増減額(△は減少)	13,031	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	65,010	81,856
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	320,141	△464,949
現金及び現金同等物の期首残高	694,361	1,960,935
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,014,503	1,495,985

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成27年1月1日 至 平成27年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	メディア事業	ストア事業			
売上高					
外部顧客への売上高	1,137,261	905,988	2,043,250	—	2,043,250
セグメント間の内部売上 高又は振替高	22,080	9,846	31,927	△31,927	—
計	1,159,342	915,834	2,075,177	△31,927	2,043,250
セグメント利益	411,639	46,141	457,781	8,030	465,811

(注) 1. セグメント利益の調整額 8,030千円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ストア事業」において、移転に伴い閉店が決定した店舗の固定資産について減損損失を計上しております。  
なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては5,099千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成28年1月1日 至 平成28年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	メディア事業	ストア事業			
売上高					
外部顧客への売上高	456,285	697,898	1,154,183	—	1,154,183
セグメント間の内部売上 高又は振替高	8,331	12,763	21,094	△21,094	—
計	464,616	710,661	1,175,278	△21,094	1,154,183
セグメント損失(△)	△29,992	△18,190	△48,183	9,840	△38,343

(注) 1. セグメント損失(△)の調整額9,840千円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ストア事業」において、移転に伴い閉店が決定した店舗の固定資産について減損損失を計上しております。  
なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては19,179千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。